



大竹中学校だより

〒739-0614 広島県大竹市白石一丁目 8-1
☎(0827)52-5177 Fax(0827)52-5178
【HP】members.fch.ne.jp/otakejhs/



-いのち輝く学校-
令和5年3月14日(火)
第43号
大竹市立大竹中学校
校長 十亀 琢磨

☆☆「大竹中学校だより」カラー版は、大竹中学校ホームページでご覧いただけます。☆☆

祝 第76回卒業証書授与式～卒業おめでとう～

3月8日(水)に卒業式が行われ、102名の卒業生が思い出深いこの大竹中学校から、巣立っていきました。3年生が来なくなると寂しくなるだろうなと思っていましたが、その寂しさは想像以上でした。

今年も残念なことに、1,2年生の卒業式への参加はかないませんでした。それでも、3年生の教室、体育館には後輩のみなさんの先輩への思いが形となって現れていたように思います。心を込めていろいろな準備を行ってくれたおかげで、本当に素晴らしい卒業式になりました。3年生の式に臨んだ姿勢も素晴らしく、呼名の返事や合唱からは、「自分たちの卒業式を素晴らしいものにしよう」という意気込みのようなものが感じられ、1,2年生のみなさんがその場にはいないのが残念でなりませんでした。

3年前に入学してきた時は、新型コロナウイルスが流行し始めた頃で、新入生だけの入学式だった上、入学して10日あまりで臨時休業となってしまい、学校が再開されても、行事が中止になったり、制限があったりと、不自由な思いをすることが多かったと思います。そんな中でも3年生のみなさんは、いろいろなことに仲間とともに挑戦することによって、大きく成長してくれました。

3年生のいない学校はなんだか静かで寂しいのですが、102名の卒業生のみなさんがこれから自分の選んだ道を自信を持って進んでいってくれるのを、応援したいと思います。

そして、1,2年生のみなさんも、次の学年に進級する時が近づいてきました。卒業していった先輩達の姿を思い出して、後輩から尊敬され、慕われる先輩になれるよう今から心構えをしておいてください。今の学級の仲間と過ごせる時間もあとわずかです。残された時間を大切に過ごしましょう。



102名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。めでたく卒業の日を迎え、中学校生活から次のステージへと船出します。皆さんが旅立とうとしている社会は人工知能の急速な進化、グローバル化の進展、人生百年時代の到来などにより加速的に大きく変化します。変化が激しく、先行きが分かりづらい時代を皆さんが逞しく生きていくために二つの話をして餞したいと思います。

一つ目は「学び続ける」ということです。現代の変化の激しい社会は知識基盤社会と言われ、日々新しい知識や技術が生み出されていきます。社会の変化に適応できる力を身に付けるために学び続けることを忘れないでください。

二つ目は「夢や目標を持ち続ける」ということです。夢や目標があるから諦めずに努力することができます。人生は順風満帆な時ばかりでなく、失敗や挫折を経験することもあると思いますが、失敗は成功に近づいた成長の証で、成長を繰り返し目標が達成できます。そして願いが叶っても、そこで満足するのではなく次の夢や目標に向かって更なるステップアップを図って欲しいと思います。

学び続けることや夢や目標を持ち続けることで立派な人間に成長し、充実した人生を送って欲しいと思います。

(学校長式辞より 抜粋)



三年生の先輩方、ご卒業おめでとうございます。大竹中学校を巣立っていかれる今、先輩方の心にはたくさんの思い出がよみがえっていることと思います。

体育祭の、前日に披露してくださった「鯉昇」、「ソーラン」は、一人一人が一致団結し、心が一つに重なり合った演舞はすばらしく、先輩方の姿は私たち見る者の心にしっかりと刻み込まれました。

文化祭ではリハーサルを開催することができ、三年生による劇は、私たち後輩に大竹中学校の伝統をつなげようというテーマで、どのクラスも一生懸命練習や準備を重ねられたことが伝わる見事なものでした。どのクラスの劇も、とても楽しく、かつ感動をよびました。

部活動では、いつも頼もしくリーダーとして私たちを引っ張ってくださいました。先輩方が引退された後、先輩方の苦勞を知り、改めて先輩方の偉大さを感じました。

大竹中学校のリーダーとしての責任を持ち、自ら行動する先輩方の姿から多くのことを学ばせていただきました。先輩方が卒業されるのは寂しいですが、これまでつないでくださった伝統のバトンを、私たち1、2年生がつないでいくことをお約束します。これからは夢に向かって力強く羽ばたいていってください。 (在校生代表 (奥下結衣さん) 送辞より抜粋)



私たちの中学校生活は新型コロナウイルスとともに始まりました。わずか数日登校しただけで臨時休校となってしまう、本格的な中学校生活が始まっても、江田島宿泊研修や体育祭や文化祭も中止となり、味気ない色のない一年間を強いられました。二年生では、体育祭や文化祭を開催することができ、クラス対抗リレーや合唱を通してクラスの団結力が一段と増していきました。楽しみにしていた修学旅行では、2泊3日で四国に行くことができ、みんなとたくさんの思い出を作ることができてとても楽しかったです。三年生の体育祭では、伝統の鯉昇・ソーランを披露し、伝統を絶やしてはいけないという強い意志を持って臨みました。文化祭では、各クラスでテーマを決め、劇を披露しました。初めてでわからないことだらけでしたが、クラスで団結し、それぞれのクラスの個性があふれる劇となりました。部活動では、仲間を大切に思いやりながら、努力を続けていくことなど、人として大切なことをたくさん学ぶことができました。新型コロナウイルスの影響で苦しい思いをしましたが、その経験から私達は臨機応変に対応する力を身に付けることができました。

私たちはこれから、それぞれが別々の道へと進んでいきます。時には大きな壁にぶつかり、辛い経験をすることもあるかもしれません。そんな時には中学校生活の三年間で培った経験を活かし、自分らしく、自分の進む道を決めることができるようになりたいです。

(卒業生代表 (後藤詩歩さん) 答辞より抜粋)



